

様式3

令和6年度特色ある学校づくり推進事業報告書

学校番号（74） 学校名 豊田市立小渡小学校

1 テーマ へき地における国際教育 ～旭地区の魅力を社会へ発信～

- ### 2 ねらい
- ・学校教育目標「地域を愛し、未来を拓いていくことのできる社会人としての基盤をもつ子どもの育成」にしたがい、地域の魅力と問題点を知り、課題解決型探究学習を実施することで、この地域の将来の担い手となる子どもを育成する。
 - ・異文化や異なる文化をもつ人々に関心をもち、自ら関わろうとする態度を育成する。
 - ・地域の場所に見学に行ったり、地域の名人に指導・講話を受けたりして、ふるさと旭の自然、文化や地域の人々と関わりながら、ふるさと旭に学ぶ活動を展開する。
 - ・地域の行事に参加する中で、ふるさとを大切にし、愛する子どもを育成する。
 - ・勤労体験・ふれあい体験などを充実し、円滑な人間関係づくりを図る。
 - ・地域の特色を踏まえた防災教育を行い、自分で適切に判断する子を育てる。
 - ・日々の教育活動を積極的に地域または海外へ情報発信して、学校・家庭・地域の共働体制づくりを推進するとともに、世界へ目を向けようとする子を育てる。

3 活動内容

（1）国際交流と発信

- ①パリオリンピック・パラリンピックを通しての活動
 - ・夏休みに行われたパリオリンピック・パラリンピックに向けて、パリオリンピック・パラリンピックの競技や参加国について調べる活動を行い、海外に対する意識を高めた。

②フランスの小学校との交流

- ・3・4年は、フランスの小学校との交流を深めた。総合的な学習の時間で、フランスの名所や食べ物などの文化について調べる学習を行い、フランスについての理解を深めた。そして、フランスとの小学校と手紙や折り紙、クリスマスカード、日本の菓子や文具などを贈り合って交流した。

③「ボンソワールTV」への出演

- ・フランス人が制作している You Tube チャンネル「ボンソワールTV」に出演し、総合的な学習の時間で学習した地域の自然や観光について紹介した。また、地域や日本の文化をフランス人の You Tube 制作者とともに体験する活動も行った。

④台湾の小学校との交流

- ・3年前から実施している台湾の小学校との交流を今年度も行った。5・6年生

が自己紹介カードを作成し、日本の菓子とともに送った。台湾からも同様に手紙や台湾の菓子が送られてきて、日本との違いを感じたり、台湾への関心を高めたりした。

(2) 地域での体験・探究学習と発信

①地域の竹に関わる竹楽器演奏

- ・年間で竹楽器クラブとして活動を、学習発表会と老人福祉施設での高齢者との交流会で演奏した。

②地域の交通事故「0」を願い交通安全パレード

- ・4月に全校児童とPTA役員が小渡商店街を歩き、交通安全パレードを実施した。

③運動会等の行事におけるこども園との交流

- ・5月の運動会、10月の芋焼きパーティー、11月学習発表会を小渡こども園と合同で行つた。
- ・1月に、1・2年生が小渡こども園に出向き、小渡こども園、杉本こども園の園児の前で、体育で学習したダンスなどの学習の成果を発表した。

④地域の福祉施設との交流

- ・地域にある老人福祉施設「ぬくもりの里」で利用者（高齢者）と交流を行つた。竹楽器の演奏をしたり、ゲームと一緒にしたりして、交流を図つた。

⑤地域・学校の特色を踏まえ、地域と連携・共働する非常時対応訓練

- ・6月に防災学習会を実施した。愛知県建設局から講師を招き、地域で予想される災害への備え方について学んだ。また、豊田市防災対策課から講師を招き、簡易トイレと避難所の間仕切りを作つたり、防災食の試食をしたりした。
- ・9月、地震によるダム決壊を想定した避難訓練を実施した。消防署の方のご指導の下、垂直避難をして第3避難場所の豊田市役所旭支所までの避難を行つた。抜き打ちで行い、いざというときにどう対応するかを学ばせた。
- ・10月、災害について学んでいる愛知工業大学の学生による防災学習を行つた。「防災パップRPG」というゲームのような教材を活用し、地域の道路や河川、避難所の位置や様子を地図で確認したり、災害が起きたらどのように避難するかを考えたりした。

⑥自然との関わり

- 1・2年生は、年間を通して野菜（学級園）などの栽培を行い、きゅうり、トマトなどの夏野菜や、大根、白菜などの冬野菜を栽培した。収穫した野菜を使って、「野菜収穫パーティー」を行い、収穫の喜びを味わつた。
- ・4月に1・2年生が地域の支援による稚鮎の放流を行い、自然愛護について理解を深めた。

⑦「とんぼマップ」の作成

- ・学校周辺が赤とんぼの群生地であることから、3・4年生がとんぼの種類や生息場所を調べ、「とんぼマップ」を作成した。その際、専門家を講師として招き、実際にとんぼの生息場所に出向き、様子を観察した。そして、その生息場所に「とよた赤とんぼの里」という看板を立て、地域内外の方に発信した。

⑧地域の観光への提案

- ・5・6年生が地域の観光事情について、旅館や商店などを訪ね、観察したり話を聞いたりして調べた。そして、さらに活性化するための案を考え、観光協会

の会長を招き提案した。

4 成果と課題

(1) 成果

- ・地域講師や地域ボランティアの方にご支援いただき、多くの教育活動を進めることができた。学校運営協議委員からも、「様々な地域の方を積極的に活用していくよい」というご意見をいただけた。さらに幅広く地域の方に参加していただくように、人材を発掘し積極的に活用していきたい。
- ・昨年度課題として挙げた地域との連携について、観光協会に地域の観光の活性化に向けての提案をしたり、地域にある赤とんぼの群生地を知つてもらうために地域と連携をとつて看板を立てたりと、地域と関わりをもちながらの活動を行うことができた。

(2) 課題

- ・特色ある学校づくり推進事業については、保護者アンケートでは、「とてもよい」と回答した人が63%あり、他の項目に比べて高評価である。しかし、昨年度は80%だったため、活動の様子が保護者や地域へ十分に伝わっていなかつたことも考えられる。学校だよりや学校HPで取組の様子を知らせたり、保護者や地域の方に学校行事や総合的な学習の時間の活動などに参加していただけたりできるよう、積極的に働きかけていきたい。

(3) 「特色ある学校づくり推進事業」に補助員を配置したことによる成果と課題

①学校図書館司書

本推進事業により週2回、学校図書館司書が在校した。子どもの読書啓発のために、季節に合わせたイベントを実施したり、使いやすい図書室整備を行つたりしている。また、総合的な学習を時間などの調べ学習に関わる資料の準備や説明を行い、児童の情報収集につながっている。

②校内整備員

季節に合わせて、校内の草刈り、木の選定、校舎内の壊れた個所の修理など、きめ細やかに行っていただけた。しかし、途中で病気で校内整備員が退職され、その後に勤めていただけた方がいなかつたため、公務手や教職員に負担がかかってしまった。

5 保護者・地域への情報発信の取組実績

- ・ホームページを毎月（計9回）し、各学級・全校の取組を紹介した。
- ・学校だよりで、毎月掲載（年11回発行）し、全校や学級の取組を紹介した。
- ・11月の学習発表会では、中学年と高学年が特色ある学校づくり推進事業に関する学習の成果を発表した。
- ・学習発表会と老人福祉施設との交流で、竹楽器を披露した。